2024年3月19日

2023年度第2回 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園
ECC 国際外語専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき
2023年度第2回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1 実施日時 2024年2月10日(土) 14:00～16:00

2 実施場所 ECC 国際外語専門学校 1 号館 7 階 701教室

3 学校関係者評価委員 ※順不同

(1)関連業界等関係者

委員長	岸部 雄二 氏	株式会社 K スカイ 取締役兼総務部長
地域関係者	中上 隆雄 氏	済美地域社会福祉協議会会長
卒業生代表	杉井 繭 氏	2018年度 海外インターンシップコース卒業

(2)同席者

瀧山 淳一	ECC 国際外語専門学校 学校長
大谷内 圭	ECC 国際外語専門学校 副校長･教務課責任者
松井 治	ECC 国際外語専門学校 英語課責任者
榊原 悠佑	ECC 国際外語専門学校 教務課主任 ＋書記兼任
岡 恵一郎	ECC 国際外語専門学校 広報課責任者
奥 大輔	ECC 国際外語専門学校 入試課責任者
杣田 典彦	ECC 国際外語専門学校 キャリアセンター責任者
新谷 優貴子	ECC 国際外語専門学校 教務課専任教員

4 報告内容

(1)開会挨拶 学校長より

この委員会の目的は、学校運営力向上のため、委員の方にしっかりと本校の取組みを伝達し、それに対して皆様から評価、ご意見を頂き、それを運営に反映していくこと。本日は、第1回委員会で頂いた課題についてどのように対応し、今後に活かしていくかを共有する。

（2）2023年度 学校全体としての振り返り
新型コロナ収束に伴い、学内行事は順調に実施された。例えば、入学式やスポーツ大会、地球祭（学園祭）などが問題なく開催され、学生の交流や学校コミュニティの活性化につながった。また、コースに紐づく留学も実現し、異文化理解や国際交流の機会を提供することができた。

（3）2023年度第1回学校評価委員会検討事項の対応について
①全教職員への学習の仕組みの浸透（大谷内）
伝達をする機会は設けているが、浸透するまでに至っていないのが現状である。それを踏まえて、次年度より週1回の教職員会議を実施して、5W1H を意識して統一性を持った伝え方をし、各人それぞれのやるべきことを明確にしていく。

②卒業生への情報伝達方法（杣田）
卒業式の日に卒業生に対して LINE＠の登録をお願いしているが、一方通行での情報発信しかできていない。現状を踏まえて、広報課と連携して、卒業生の現状を細かに聞き取る方法や卒業生向けのアプリ開発を検討している。

③学生獲得のための取組み（岡、奥）
【広報課視点】
大学全入時代が影響し、高校ガイダンスに参加し、観光分野に興味を持っている生徒に出会ったとしても、大学に進学してしまう傾向がある。現状を踏まえて、本校として何を発信してするべきか、または本校にしかない魅力を精査してどう伝えていくかを今後の課題として捉えている。
【入試課視点】
学生が魅力ある企業に内定したら速やかに鮮度の高い状態で常に就職・資格実績をアップデートしていく。加えて、競合校での状況を分析し本校にしかない強みの再確認、実際に高校に訪問し出張授業をするなど少しでも多くの高校生に本校のことを知ってもらう機会を増やしていく。

④教職員間の交流の重要性（榊原）
強い組織を作るための一つとして、信頼関係を構築して、コミュニケーションの取りやすい環境を作ることが大切であると考えている。そこで今年度、家庭相談室で相談員として従事されていた教員から自己体験を踏まえた「傾聴研修」を実施。そのなかではグループワーク等を実施し、普段関わりの少なかった教職員間での交流する機会ができ、アンケート結果は非常に高評価であった。週1回の教職員会議内でコーチング研修、ハラスメント研修、SNS 研修やコースごとで優秀な成績を収めた学生や取組みを紹介、そして外部研修に参加した報告をしてもらう場にすることを考えている。
⑤アフターコロナにおける留学について（松井、新谷）
留学でしか得られない体験・価値を熱量持って伝えていくことを意識しているが、コロナ禍を経て、

手軽で安価なオンライン留学のほうに流れているように感じている。実際に航空代金がコロナ前に加えると10万円程度高騰しているのは否めない状況ではある。
新たな取り組みとして、ニュージランドへワーキングホリデイビザを活用した6か月間の有給インターンシップを導入した。これにより、従来の海外インターンシップに比べると費用を抑え、学校のプログラムとして参加しているため、ワーキングホリデーではなく、インターンシップ体験として就職活動時に語れる海外経験としてアピールすることが可能となる。事前準備として、海外との文化の違いを学ばせている。
これまでの振り返りを踏まえて、帰国後プログラムの充実を図り、リバースカルチャーショック対策をし、この経験が今後に活かしていけるという思いにさせようと試みている。

2023年度第1回学校評価委員会検討事項の対応についてのご意見
【中上様】
現在の学生は、手取り足取りしてもらえるのでうらやましい。その反動として、受け身の学生が増えたことで社会情勢に対して、無関心や理解しにくいようになってきている。今後は、学生と向き合うための距離感が非常に大切になってくる。
【岸部様】
就職後2、3年で退職してしまう人が増えてきているように感じている。その背景には、挫折経験が乏しいことで乗り越える力が不足しており、幼さがあるようにみえてしまう。
学生獲得については、なぜ専門学校という疑問に明確な答えが出せるような打ち出しをして、保護者の方に理解をしてもらうことがポイントになる。英語を学ぶという視点から英語を使って何を身に付けるかという視点へのシフトチェンジが必要である。
【内部回答】
（奥）
本校と大学生の学費比較という点に対しては、現状は質問されたら答えるという程度に留めている。今後は、大学生よりも1～2年早く必要なスキルや経験を安価で身に付けることができるということをもっと分かりやすく来校者に伝えていくように努めていく。
（新谷）
金額面で留学と比較すると、ワーキングホリデーの方が150万円近くをおさえられる有給インターンシップを取り入れた。実際に2024年4月20日出発で2名の学生が興味を持ってプログラムへの参加が決定している。

⑥【追加質問】地域と官学連携について（大谷内）
中上様
現在中崎町地域では、第4月曜巡回パトロール、地域清掃、キャンドルナイト等のボランティア活動があるが、こういった活動を通じて、特に留学生には母国に帰国した際に、体験談を伝達してほしい。

岸部様
大人と話す機会を増やすことは見識を広げるうえでも良いし、自己成長にもつながる。

（4）2023年度学校運営振り返り（募集・教務・進路）
【入試課】
募集は微増でコースによって偏りがある。韓国語コースと留学生コースは増加している。苦戦しているのは大学編入コースではあるが、今後各大学の合否結果が出るので、その結果をもって本校に出願してもらえるような対策を講じていきたい。留学生は以前ベトナムからの入学者が多かったが、ネパール出身者が増えてきている。
【教務課】
力の付く授業満足度は、過去最高4．52を獲得した。理由として、ICT の有効活用や科目担当者間での情報共有機会を増加したことで、授業の質向上に繋がっている。
進級・卒業率については、昨年度の数値から大きく改善している。理由として、新たな学生支援チームを設立し、出席率が思わしくない学生に対して早期サポートしたことで学生の居場所確保に繋がっている。英検2級合格率が低下していることを改善するための取組みとして、土曜日に英検合格突破プログラムを導入し学習機会を増やした。新入生のTOEICスコアについては、年4回実施しているが、昨年に比べてスコアは向上している。意欲の高い学生には、別途IP試験を提供している。
コースに紐づいている最低3週間、最長6か月の留学は全て実施でき、短期留学については、この春にイギリス14名、セブ7名が参加予定である。これまで帰国後に出ていた要望に対して、きっちりと分析・改善したことで帰国後アンケート結果が5点満点中4．8点となった。
【キャリアセンター】
（日本人就職状況）売り手市場の影響で就職支援を早期化した結果、就職内定率が向上しただけでなく、質の高い就職先に導くことができた。CA、GS 就職率は100％である。ただし、語学系での語学を活かした就職率は6割弱となっており、この点の強化が必要と考える。
（留学生の就職状況）今年度は帰国者、進学希望者はおらず、全員就職で就職率100％を達成した。以前は日本人が不人気だったところに就職していた傾向があったが、現在は日本人が目指す就職先と同一で活動させ、そこで勝ち抜いている。専門技術を活かせる場所でないとビザ申請が通るのが難しくなってきており、本校では、技人国ビザにこだわっている。
（大学編入状況）国公立や有名私大の合格は相変わらずハードルは高いが、中堅程度レベルの大学については、人気学部以外ではほぼ合格している状況である。

⑸ 報告事項と次年度にむけて（学校長）
入学者減により英検の受験者数も減っている影響で2022年度の団体表彰は奨励賞に留まったが、次年度は文部科学大臣賞を受賞できるように努める。接客業務の力をみるサービス接遇検定については、2年連続で2023年度も優秀団体賞を受賞することができた。専門力の学修成果

として外部にも発信していく。あらたな取組みとして、高等部を開設し、高校生にも間口を広げた。運営効率をはかるために一つの建物に関係者を集約した結果、各部署との連携がとりやすくなった。2024年度にむけては、高等部グローバルスタディ―コース韓国語専攻の立ち上げ、新たな事業展開として ECC 学園高校の学校法人化、グローバル学科の職業実践専門課程申請、グローバル英語コースに新専攻としてグローバルチャレンジ専攻の設置など募集活動の強化に力を注いでいる。

2023年度学校運営振り返りについてのご意見
岸部様
日本全体が小さくなり海外に目が行かなくなっている現状の中で、ECC は、外に目をむかせるきっかけを作っているように感じる。社会に出る前の最終の学びの場としてこれからも質の高い学生の育成をしてほしい。その結果として、即戦力として活躍できるようになるのではないかと考える。

学校長からの挨拶
本日頂いた忌憚のないご意見を学内へ持ち帰り、教育力向上に取り組んでいきたい。加えて、入試広報と連携して外部へ本日の貴重な意見を発信し、多くの方に入学してもらえるように力を注いでいく。学校長として6年間の任期を終了し、3月末をもって退任する。後任は現学校長代理の大谷内が4月1日付けで学校長に就任する。
2024年度第1回の学校関係者評価委員会は、2024年9月7日（土）14：00～実施予定。

以上